

オールシーズンタイヤ・スタッドレス4輪 11月より装着開始!

第2回 団体交渉



2019年10月23日(水)9時30分より、本社棟101会議室において第2回団体交渉が行われました。経営側は木塚所長、吉岡副所長が出席し、新執行部からは菊池執行委員長を始め、岩瀬副執行委員長、筒井書記長、河西執行委員、杉元執行委員、佐々木執行委員の6名が出席しました。(執行部)何か検討したことはありませんか?

(経営側) 具体的に決めていることはない。(執行部) スタッドレスについては4輪装着できるように、準備は進んでいますか?

(経営側) 11月から順次、ジャパンタクシー・クラウンにはオールシーズンタイヤを装着していく。また、スタッドレス4本の車もある。今現在の正確な本数は把握していない。(執行部) もう11月といえばシーズンに入っています。早急に確実な本数を知っておく必要があります。次回には必ず本数を確認しておいて下さい。

納金機・両替機の補修・交換について検討しているのか? パートの手間を考えると、納金機は新しいシステムにした方が良いでしょう。人件費の削減にも繋がるし、乗務員の間違いも減ります。(経営側) どちらも古くなっているのを見積りの準備はしているが、本社経由で買うしかない。何年使用したか確認し、来期の予算を立てる予定です。

(執行部) インフルエンザの予防接種については?

(経営側) 本体と同じ基準で1,000円の補助をします。予防接種は11月後半に実施する予定です。(執行部) 「2020年度出番表」については?

(経営側) 組合に相談しながら検討していきます。(執行部) ラジオについては、他社のジャパンタクシーや同じグループ会社には付いているのに、わざわざ外す意味がわからない。災害が続いている中で、「通行止め情報」など知らなければいけないことがたくさんある。アプリも大事だが、ラジオは必要不可欠です。もっと現場の声をあげて交渉するべき。(経営側) 日交本社総務は付けないという姿勢だが、声はあげていく。

【要求項目以外の申し入れ次項】(執行部) その他、最近事故を起こした乗務員に対し、退職を促すようなことをしているようですが、昨年の処分の見直しにおいて、事故を複数起こした場合は、今後は出勤停止ではなく教育をしていくと決めてから一切教育をしません。事故が減らない理由は採用・教育に問題があります。辞めさせるということではなく、「どう教育して事故を減らしていくか」が大切です。

(経営側) 事故惹起者への教育は始めています。路上教習の他に「危険予知トレーニング」や「バック練習」などの取り組みも行います。(執行部) 嘱託の契約・更新については確認をしていますか?

(経営側) しています。(執行部) 組合員からまだ更新していないという声があがっています。もう一度確認して下さい。

第3回 団体交渉

11月7日(木)の第3回団体交渉では「2020年度出番表」について協議が行われ、経営側から会社の全休日を無くし、稼働させたいという申し入れがありました。(経営側) 日交本体と比べて東洋は稼働率が低い。その対策として日曜日の全休・大型連休を稼働させたいと考えている。今度の「2020年度出番表」に組み込みたい。(執行部) 東洋交通は日曜日・大型連休という労働条件が良く働いている乗務員が大勢います。組合としては、日曜日出勤は自己都合で振替をする者、補償給期間の新人乗務員のみ、認めています。今後、日曜日に稼働させるとなれば、賃金自

体を見直す必要があります。それができないなら認められません。大型連休を固定にせず、お盆やゴールデンウィークの休みをずらし、パターンを作って連休を選択できるようにすれば稼働に協力できるのではないかと? (経営側) 大型連休の月は、ランダムに自分でシフトを選べるようにしたらどうか? (執行部) 管理ができれば良いが、13勤務で組んでしまったり、7連勤などの問題が発生する恐れがあるので、希望を聞くというのは難しい。会社側が作ったパターンを選択できるようにした方が良いでしょう。(経営側) 色々なパターンを作成し、検討してみます。



その他の要求項目についても話し合いが行われましたが、前回までと同様の回答でした。スタッドレスの確保できる本数や、納金機の交換時期については、正確な本数、時期を伝えるよう申し入れました。

次回は12月10日に交渉を行う予定です。労働条件改善に向けて交渉を進めていきます。

全自交労連 第75回 定期大会

「労働条件を改善し、魅力あるタクシー産業に」「ライドシェア導入を阻止し、地域交通を担う」



2019年10月16日・17日、御茶ノ水全電通会館において「全自交労連第75回定期大会」が開催されました。全国から約300人の仲間が参加し、多数の来賓が駆けつけました。東京オリエンティックを来年に控え、ライドシェア問題が正念場を迎える中で、大会となり、地域交通を担う安全・信頼タクシーの実現・ライドシェア導入阻止・違法な白タク摘発。労働条件改善で魅力あるタクシー産業に再生する新年度運動方針と、役員体制を確立しました。また、自然災害からの早期復興と運動の前進を誓い合いました。

大会前日の中執会議において、急遽決定された台風の災害カンパでは大会2日間で23万円を超える支援が集まりました。また、大会で毎年行われる『全自交労連第47回機関紙コンクール』では、東洋交通労組の『躍進』が佳作、『U-I-L-I-N-K』が敢闘賞に選ばれました。



東洋交通労組からは16日にB出番から8名、17日にはA出番から9名の組合員が定期大会に参加し、災害カンパにもご協力いただきました。ありがとうございました。



全自交東京地連 第122回 定期大会



2019年10月30日、新宿区の角筈区民ホールにおいて「第122回全自交東京地連定期大会」が開催され、2018年度の運動の総括と、2019年度運動方針（案）・会計予算（案）・役員改選（案）の全ての議案が可決承認されました。運動方針の骨子としては4項目を掲げ、

①「ライドシェア」白タク
②適正化・活性化の推進
③組織拡大の実現
④政策・制度要求の実現

に向けて、これから1年間の運動を展開していくことを確認しました。

今大会で後藤修美副執行委員長、菅原俊輔執行委員長、大嶋一公執行委員長、福島進執行委員長が退任となり、それぞれ退任の挨拶がありました。新執行部には、溝上泰典執行委員長・菊池るな副執行委員長が再任となり、元ライオン交通の大松啓治氏が新副執行委員長となりました。

今大会では初めて傍聴者の動員を要請し、東洋交通労組からも13名の組合員が参加をしました。総勢約60名が参加し、例年よりも活気を帯びた大会となりました。



台風15号・19号・21号での被災組合員へのカンパについて



10月20日の定期大会から11月20日まで東洋交通労働組合でカンパ活動を行い、総額75,058円集まりました。

その他、福利厚生費から500円×組合員数552名276,000円を合わせて351,058円を全自交東京地連へ送金しました。

状況を精査し、被災された全自交の仲間へ届けます。ご協力ありがとうございました！